

食品ロス減らす行動を

FAO駐日職員講演

室蘭・海星 学院高校 生徒と昼食会も



昼食会でボコリさんと話し、食料問題への理解を深めた海星学院の生徒

室蘭・海星学院高校(堺俊光校長、239人)で9日、国連食糧農業機関(FAO)駐日事務所のムブリ・チャールズ・ボコリさんを招いた講演会が開かれた。

講演を聞いたのは1年生86人。ボコリさんはFAOの取り組みや食料問題の要因、深刻な状況を説明した。「日本では毎日、1人当たり茶わん1杯分の食品ロスが出ている」と話し、「ロスを減らすための行動は誰でもできます」と訴え掛けた。

その後、3年生2人、1年生3人と一緒に昼食。生徒は世界が抱える食料問題に理解を深めながら、「どうしたらFAOに入れるのか」などに関心を示していた。

講演と昼食会に参加した川端武士さん(1年)は、世

界には全人口を養うだけの食料があるにもかかわらず、十分に食料を入手できない人がいる現状を初めて知ったという。「話を聞き、食料問題に興味を持ちました。自分にできることを取り組みたい」と話した。

(林帆南)